

土居昌弘の大分県議会議員活動報告

羽ばたき

ともに輝く
社会づくり



平成23年
夏季号

編集：市民自治研究所「もやい」 発行：土居昌弘
土居昌弘七里事務所 〒878-0005 竹田市挾田670番地
TEL 0974-62-4848 FAX 0974-63-0124
<http://www.doi-masahiro.jimusho.jp/>

積極予算!! 大分県7月補正

平成23年度第2回定例県議会が7月7日(木)から8月3日(水)まで開会されました。東日本大震災に対応し、地震防災対策を強化するとともに、安心・活力・発展の大分県づくりをさらに前進させる補正予算を可決しました。

また、土居昌弘は議会運営委員、総務企画委員、人と自然の環境・資源対策特別委員として、県議会の改革や大分県の地域振興や教育・福祉分野について調査することになりました。人口減少、高齢化社会へと進む竹田市の課題を解決するため、全力で活動してまいります。

平成23年度7月補正予算のポイント

[補正額] **546億49百万円**

累計 **5,982億91百万円**

対前年度増減額 **+41億8百万円**
増減率 **+0.7%**

- (1) 3年連続プラス予算：+0.7%（地方財政計画+0.5%）
- (2) ソフト・ハード両面から地震防災対策を強化するとともに、観光や農林水産業など震災の影響を受けている分野への対策を実施（38事業 68.7億円）
- (3) 国の公共事業費が削減される中、景気・雇用を下支えするため、投資単独事業を大幅に増額（+14.1%）し、投資的経費全体を5年ぶりに増額（+0.7%）
- (4) 安心・活力・発展の大分県づくりのさらなる前進
→おおいた活力創造枠 40事業 14.8億円

竹田市に係わる補正事業の一部

- 道路改良事業 26億94百万円
庄内久住線など、道路ネットワークの整備を促進
- 高齢者等地域支え合い事業 3億22百万円
医療情報キットの高齢者世帯への配備など
- 鳥獣被害総合対策事業 1億44百万円
金網柵やネット柵設置（累計4億20百万円）
- 防災映像公開システム整備事業 5百万円
国道442号などに監視カメラを設置
- 商店街魅力ある店づくり事業 3百万円
竹田市などの商店街活性化に向けての研修
- 私立学校図書等整備事業 19百万円
しらゆり幼稚園、竹田南高校などの図書の整備
- おおいた県民美術鑑賞推進事業 5百万円
竹田市と中津市で芸術会館所蔵品の巡回展開催
- ジオパーク構想推進事業 20百万円
竹田市を含む県下5エリアでの地質・地形の調査など
- 治水ダム建設事業 1億45百万円
玉来ダム本体の詳細設計ならびに調査など

土居昌弘一般質問

7月20日(水)、大分県議会平成23年第2回定例会の一般質問に「子育て支援」「地域の支え合い」「環境にやさしい農業」「畜産業の振興」「地域社会のなかの建設業」「学校教育」が抱える課題を持って登壇しました。

私の指摘を大分県行政もしっかりと受け止め、よりよくしていくと答弁をいただきました。その一部を紹介します。



分解型マルチの活用

(土居質問)

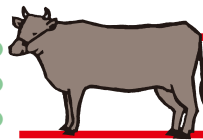
農業の世界で「マルチ」とは、作物の根の周辺の土壌を覆うフィルムのこと。分解型マルチは土壌の微生物や光によって分解されるフィルムのことです。時期が来れば自然に分解するため、栽培終了後はすき込むことで除去作業や回収も不要で、環境にやさしい資材だ。

竹田市などではスイートコーンやレタス栽培に広く使用されており、県としても使用推進を図るべきだが。

(農林水産部長答弁)

分解型マルチは通常のマルチに比べて価格が3～4倍と高価な反面、収穫後の剥ぎ取り作業や廃棄処分が不要であること、また、次の作物を植え付けるまでの作業期間が短縮されることなどのメリットがある。特に夏場に、2～3種類の作付けを同じほ場で繰り返す大規模野菜農家を中心に普及している。

これを導入することで作業の省力化が図られ、人件費の削減と生産量の拡大が可能となるが、特定の資材の利用を補助事業で誘導することは、その目的や必要性を十分に検討する必要がある。



牛の肥育施設整備

(土居質問)

本県の畜産農家は繁殖農家の割合が高く、肥育農家の割合が低い。このことによって、ブランドの確立ができない。

竹田市では今、300頭規模の肥育施設の整備が計画されている。本県の畜産業振興のためにも速やかな整備に向け、県としても積極的な支援をすべきだと考えるが。

(農林水産部長答弁)

昨年度の子牛の県内保留率は26.4%と低い。肥育から食肉の流通販売まで手掛ける経営体の参入が期待される。

竹田市での肥育施設の整備は、竹田市をはじめ地元生産者が誘致に積極的であり、事業計画が実現すれば、生産基盤の拡大や地元子牛の買支え効果による市場価格の上昇も期待できることから、県としても可能な限り支援していく。



武道教育必修化

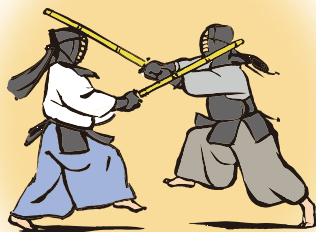
(土居質問)

来年度から中学校の体育で武道が必修となる。武道にある礼儀や公正な態度など、伝統文化に触れる機会が広がることはよいが、けがの危険性も高い。例えば柔道。平成21年までの27年間で、学校で柔道をしていて亡くなった生徒が110人。後遺症が残る障害事例が275件と危険だ。武道の授業の準備と、指導者の教育は万全か。

(教育長答弁)

本年3月時点で中学校の体育の教員のうち、有段

者は50.2%。武道の指導者研修への参加経験者は74.7%。また、武道指導者を養成する講習会を昨年からは2日間に拡大し、指導力向上に加え、事故防止等の安全面の充実を図っている。



剣道の防具なども2年前から自治体の要請に応え準備している。

今後も教員の指導力向上に努めながら、安全で効果的な授業が行えるよう十分な準備を行う。



久住校の教育環境向上



(土居質問)

三重総合高校久住校の教育環境に問題がある。竹田市の学生寮に県立学校の教員・職員が泊まり込み、生徒を見守る。寮も老朽化が激しい、先生も疲労が蓄積。在籍生徒数も減少気味で、このまま減少していけば募集停止のおそれも。こういう環境下で誇れる農業教育が可能か。

(教育長答弁)

在籍生徒の4割が地域外から。寮は竹田市の協力により、男子寮は無償提供、女子寮は低価格で借上げ。県教委としても改善に努める。

(土居質問)

久住校を県が誇れる農業教育の学校として、全国から生徒を募ってみては。

(教育長答弁)

● 県外からの生徒の志願を認めているのは、芸術緑丘高校、海洋科学高校などの特色ある学科を設置している学校。久住校については現時点では、考えていない。

● しかしながら、久住は肉用牛の生産が盛んな地域。近くに農林水産部の研究指導センターもある。これから畜産教育に力を入れ、それに加えて米や野菜の生産なども総合的に学ぶ学校として、どのように充実、発展させていくか、地元の意見も頂きながら、学校づくりに努力していく。



国へ
意見書
提出

大分県議会

菅内閣の早期退陣を求める

● 東日本大震災から4か月が経過しましたが、菅総理の震災後の対応の遅れ、場当たりの判断や命令は更なる混乱を招き、復興に大きな支障をきたしています。

● 復旧・復興を成し遂げるためには、「国民の生命と財産を守る」ための新たな内閣を早期に誕生させなければなりません。菅直人内閣には、国民のため、一刻も早く退陣するよう強く要望し、「菅直人内閣の早期退陣を求める意見書」を賛成多数で可決しました。

● 佐賀県唐津市議会は「首相退陣を求める決議案」を全会一致で可決。全国都道府県議会議長会でも同様に議決済み。多くの国民は、国のために機能する内閣を求めています。

● その他、東日本大震災後の国の対応について「原子力発電所の安全対策の強化とエネルギー政策の見直しを求める意見書」、「当面の電力需給対策に関する意見書」、「国産牛肉の安全対策の強化を求める意見書」を可決し、国へ提出しました。



今年の2月4日に地元竹田市での玉来ダムの検証作業は終わり、玉来川の治水には「現行のダム（案）が最適である」と合意。これを受けて大分県では「ダム事業の継続を」と国に報告しました。

国では「今後の治水のあり方に関する有識者会議」を設置しており、そこでの審議の結果を受け、国土交通大臣が国の対応方針を示す運びになっています。ところが、この会議が対象とする83事業のうち、審議の場には上がっているものは今だに14事業だけ。7月20日にも会議は開催されましたが、玉来ダム事業はまだ俎上にはのっていません。

6月16日に広瀬県知事が国土交通大臣に直接会って要請しましたが、まだこの現状。8月2日には首藤市長、加藤市議会議長と地元の方々为国家戦略担当大臣に要望し、たたみかけました。早く私たちの安心・安全を築けるように、国に向かって声を上げ続けましょう。

パーキングパーミット制度って何？

今回の7月補正には、パーキングパーミット制度の普及および定着を図る事業が入っています。この制度は車いすマーク駐車場の適正利用を促進するため、障がい者や高齢者、妊産婦などに対し統一仕様の利用証を交付し、駐車場の利用者を明確にするもの。そのことによって、不正駐車を防止する取り組みのことで。

ところが、日本で初めてパーキングパーミット制度を導入した佐賀県の現状を調べてみると、制度導入後も車いすマーク駐車場の不正利用の実態は変わらないという事実が。

と言うことは、この制度を活かそうと思えば、ドライバーの理解が大切。では、どうすれば。

そこで、「自動車運転免許の更新時などの講習にこの制度の説明を入れて、県民ドライバーの理解を深めては？」と提案。これを受けて警察本部は「この制度は法令ではないので講習の対象外であるが、県の制度でもあるので講習で理解を求めていく」と答弁。障がいがある、ないに関わらずみんながともに暮らせる社会の実現に向けて、一歩前進です。



大分県議会の車いすマーク駐車場

伝わるものを



塩津清人記念能舞台での市民能楽講座（昨年の様子）

7月議会の一般質問で、県立美術館建設について「なぜこんなひもじい時に？」とある議員から問われ、「ひもじい時でも心の糧は必要です」と広瀬知事は答えました。

今、竹田のまちでは『しほや』を中心に「たけた能 month-能と出会うまち」（8月末日まで）を開催中。8月27日の「竹田薪能」に合わせて、地元の若者たちが夜も眠らず企画し、汗を流して、竹田の魅力を発信してくれています。岡藩主中川公は能を愛好されました。それゆえ、岡藩で暮らす人々も能の謡（うたい）を学び、祝いがあると長老たちは身を正して「式三番」を謡いました。江戸時代から能の文化が栄え、今もその伝統が息づく城下町の魅力を伝えたいと頑張っています。

芸術文化とは、心の糧。食べ物私たちがの身体を維持するために必要なように、私たちの精神の糧となるのが芸術文化です。竹田市が岡藩の時代から受け継いできた、その心の糧を次代に引き継ぐことが大事。私たちは皆「時代の後継者」。残して伝えるべきもの、新しくつくり出すもの、時代の選択にゆだねて捨てるもの、これらを時々判断して、次世代のために行動しなければならないのです。

竹田の若者たちと広瀬知事。心の糧を引き継いでいきたいという思いは同じようです。



伝えていくこと



謡の音が響く竹田のまち(しほや)

竹田市民の皆さんの信任をいただき、重ねて県議会議員として活動させていただくことになりました。今回は市内をくまなく走り回り、多くの方々と「思い」を交わしました。「農業を見捨てんで」「老人の暮らしにもっとサポートを!」「町を元気にして」…あなたの願いをいただき、その実現に向けて懸命に精進してまいります。今後どうぞよろしくお願いいたします。

土居昌弘

